

Topics
島根県立大学
浜田キャンパス
×
地域

- ①学生の思い
- ②先生の思い
- ③連携の方法
- ④事例の紹介

島根県立大学と地域の連携に注目!



島根県立大学の学生さんは地域活動で活躍されています。地域に行った時の感想や思い、先生が期待されること、改めて連携について取材をしました。ぜひ、今後の地域活動にお役立てください!

Topics①
学生の地域活動への思い



地域に行くとみなさん優しく話しかけてくれる。私もそんな人になりたい!	事業だけ呼ばれるんじゃないかと、企画から一緒に関わると嬉しいし勉強になる!	釣りとか運動会は楽しかった!地域の同世代の人に会えるのも嬉しい!	地域に出たいけど、なかなか情報を得ることが難しい。地域の情報を知りたい!	学生にもっと地域の要望を言ってもらえると嬉しい!あと交通手段は悩みの種。
------------------------------------	---------------------------------------	----------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------

Topics②
先生の思い

【地域の皆さま】学生を受け入れていただき感謝申し上げます

学生の「やりたい」と地域の「やって欲しい」と言う双方のニーズが合っている事が大前提だと考えています。学生が地域に出て迷惑だけ掛けて帰るのは効果がありません。積極的に地域に出て、信頼関係の上に事業の企画や終了後の交流などの流れが生まれると、教室の中だけでは学べない事が得られます。地域が喜ぶことで学生が成長し、責任感も生まれる。地域が学生を育てていると感じる瞬間です。地域活動をとおして、地域という「営み」の体験は、卒業後の人生を変えるほどのきっかけにもなっています。地域活動で一緒になった時には、時には優しく、時には厳しく、子や孫のように接していただくと嬉しく思います。(村山誠教授より)



Topics③
連携の方法

学生ボランティア
依頼するには?

依頼書も楽しそうだしいいみたい♡

① 島根県立大学浜田キャンパス内の学生ボランティアホームページから依頼書に記入します。

② 依頼書は郵送、FAXまたは電子メールにて島根県立大学連携交流課までお送りください。詳しくはお電話ください

✉ h-renkei@u-shimane.ac.jp
☎ 0855-25-9063 (連携交流課直通)
FAX 0855-24-2387

Topics④
事例の紹介

夏だ! 音楽だ! 殿町ミニフェスだ! 【殿町まちづくり委員会】

今年も8月23日土曜日の午後5時から8時、殿町にある立正佼成会の広場を借用しステージを設営し、生バンド演奏を聴きながら多世代の交流を図りました。ステージ前にはテーブルと椅子を多数配置し、その周りを取り囲むようにキッチンカーや催事ブースを並べて賑やかな演出をしています。スタッフはまちづくり委員会役員と地域の有志、ボランティアの県大生や高校生で、ゲーム、クイズ大会なども有り、最後は打ち上げ花火で終了しました。参加者数は約250名で毎年増えています。皆さんにはキッチンカーで使えるクーポン券を事前に配布し、出店者への配慮をしています。殿町まちづくり委員会は、4年前から県大生の参画を得て8月のミニフェス、12月のクリスマスイベント、毎月のサロン活動が主な事業です。各町内の事業も尊重しながら、全体事業の予算効率化を図り地域の満足度を上げる事に努めています。(文:同委員会野藤会長)



学生と地域の連携

まちづくり活動報告

金城地域

小国まちづくり委員会

田んぼオーナー制の取組について

Activity Report



POINT①
農地を守る!

かんぼったあとの交流が楽しい!

小国まちづくり委員会地域振興部の小国の農業を考える会が中心となって令和7年度「田んぼオーナー制」を始めました。

取組の一つとして「てこの日」を計画し、田んぼの草刈りの体験者を募集しました。小国以外の地域から農業未経験者(草刈り未経験者)が集まり、初めての参加者には草刈り機の使い方を指導しました。2時間程度の作業だったのですが大人数で作業をしようと思ったよりはかどっていました。回数を重ねると顔見知りにもなり会話も弾み和やかな時間となりました。雑草の中の花を持ち帰り、花瓶に活けた写真をグループチャットにアップして下さり、畦道では厄介者の雑草も家の中で可愛く咲きいいなあと感じた人もいたのではないのでしょうか。

草刈りは1回手伝うごとにスタンプ1個押してもらい3個で小国の新米5kgと交換できます。新米めあての参加者含め来年も活動を継続され協力者が増えることを期待しています。

三隅地域

三保地区まちづくり推進委員会

11回目にして! 新しい挑戦!

Activity Report



POINT①
休耕田の活用

POINT②
学生との連携



師走最初の日曜日、三保地区は「三保なべフェスタ」で盛り上がりしました。今回は、担当部会の粋を取り払い、推進委員会全体で取り組む形になりました。それにより、推進委員の誰もが関わりやすくなり、フェスタの運営に新たな顔ぶれが見られ、全体が活気づきました。一方では、持ち場の引き継ぎが十分でなかったためボランティアが迷う場面もあり、持ち場の運営を安定させるという反省が出ました。

中学生やりハビリレーションカレッジの学生が、前日の鍋の仕込み、出店用の野菜洗い、当日の受付、総合進行、ブース販売のお手伝いと、各所で地域の人と一緒に活動する姿がありました。まちづくりセンター職員が「多くの学生から『地域貢献がやっとできた』という声を聞いて、地域に対する気持ちをもってもらっていると知りました。」と話していました。ここでも学生の力が地域に大きく元気をもたらしてくれました。これからも三保なべフェスタが、人と人とを結びつかせ地域全体に幸福感をもたらすロングランな事業として愛されていくことを願います。もちろん! 「三保なべ」はとても美味でした!!

まちづくりと防災 —あなたの備えは大丈夫?—



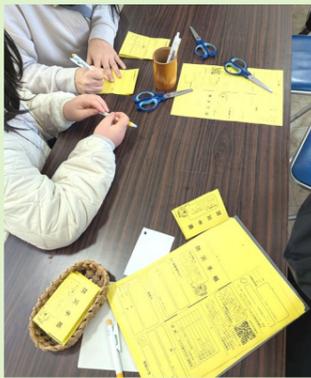
▶ 12月7日(日)に国府地区(下府町・久代町・国分町)の津波避難訓練が実施され160人強の住民が参加しました。

当日は午前8時30分のサイレンに併せて防災無線により大津波を想定した避難が促されました。ある地域では国道沿いのコンビニエンスストアが指定避難場所で、50人近い住民が次々と避難し町内会名と避難者名を記帳していました。

まちづくりセンターでは、備蓄品の試食や消防署による応急手当、警察署による災害支援活動写真展、防災士による簡易トイレ、備蓄品、非常持ち出し袋の紹介などに参加し防災の再確認をしました。

小さな子どもが折り紙感覚で作っていた「防災手帳」は、センター職員が中心となり参加者と共に作成していました。

訓練後役員は「住民の防災意識の底上げ」「高齢者避難の在り方」「実際の被災を想像して不安が増した。今後の対応が重要」などこの訓練を真剣に捉えていました。こうした訓練により具体的に取り組む事ややるべき課題が明確になる事が日頃の訓練の成果ですね。



※以下つぶやきはAI(人工知能)を使って関西弁風に変換し記載してみました(笑)



1980年代、ワープロがめっちゃ流行って、「覚えたころには定年退職！」なんてキャッチフレーズが話題になっったんや。でも1990年代になったら、もうパソコン(Word, Excel, インターネット)が主流になって、ワープロはあつという間に入れ替わってしもた。

by:佐々木昌文(男性、67歳)

あん時な、うちの部屋を占領してたんは、3段カラーボックスに並べたブリタニカ国際大百科事典とステレオコンポ。若い頃のちょっとした“ステータス”やったなあ。(薄給やったから、クレジット払いに苦労したわ...)経済の情報はテレビとか日経新聞・朝日新聞から取るのが普通やってん。

2020年代になったら、情報機器の進化はほんまにすごい。今やスマホ1台あつたら大体なんでもできる。SNSやYouTubeみたいなニューメディアのおかげで、自分で情報取捨選択できるようになって、しっかり存在感出してる。一方で、同じような情報しか流さん“オールドメディア”はほんまに限界感じるわ。百科事典もステレオもずっと前に処分してもらうたけど、ついにな、テレビまで見んようになった。

AI(人工知能)もどんどん進化して、将棋の藤井聡太が研究に使ってるのは有名な話や。画像や文章を作る生成AIも注目されてて、仕事で活用する人も増えてる。片っぽではな、著名人になりすました投資詐欺も増えてるさかい、騙されんよう気いつけなあかん。そら高齢者が最新の機器やコンテンツを敬遠するの分かんないわ。せやけど、2030年にはAGI(汎用人工知能)が、2040年にはASI(人工超知能)が出てくるって言われてんねん(倫理の問題もあるらしい)。いずれはな、そんな世界で生きてくことになるんやろなあ。

2040年には、浜田市の人口は確実に4万人切るやろうし、少子高齢化はますます進むはずや。日々の暮らしはAIとかロボットをうまく使うといて、ほんまに人間同士のつながりは、ちゃ〜んと残していきたいもんやな。



◎活動の様子公開中
フオロ二次元コードから
待てますヨ

【Instagram】



浜田市地域政策 まちづくり社会教育課

【電話】 0855-25-9201 【FAX】 0855-23-1866

0855-25-9007 【メール】 machizukuri@city.hamada.lg.jp

(まちづくりコーディネーター執務室)

【依頼申請コード】



全ての人が一体となった持続可能で元氣な浜田市

まちづくり通信 コーディネーター

第16号 令和7年12月末発行

写真:わんぱく道場~親子で楽しむ芋掘り~(旭地域)

ぼくの地元! 外ノ浦・松原まちづくり推進委員会主催の 潮風そよぐふるさと祭り!



浜田市観光協会
公式キャラクター
はちえもんたるま



11月23日(日)、外ノ浦・松原まちづくり推進委員会による『潮風そよぐふるさと祭りin外ノ浦・松原』が開催され、たくさんの方で賑わいました。

松原湾沿いに完成した新道路の名称を同委員会が地域住民に募集され、約300世帯のうち半数に近い応募数がありました。名称は多数の応募があった『八右衛門 通り』に決まり、役員による厳選な抽選のもと4名が命名賞を受賞されました。できる限り応募者の思いを汲みたいと『努力賞』『技能賞』『ユーモア賞』の賞も作られました。

新道路の愛称募集を機に親しみやすいまちづくりにつなげたい

屋内では、新米のすくい取り、餅まき、ビンゴゲームが行われました。餅まきでは、車椅子の高齢女性に幼い子どもが「はい、どうぞ」と紅白餅を手渡す姿に、周りから拍手が沸き起こり、会場が温かい雰囲気になりました。屋外では、コーヒーがふるまわれ、加えて地元出店のうどんやシフォンケーキの販売も行われました。

「日本遺産に指定されている景観を多くの人に知ってもらいたい。」という思いが込められた、『潮風そよぐふるさと祭り』でした。これからも外ノ浦・松原まちづくり推進委員会の活動から目が離せません。



お玉を持ってポーズを決める地元のみなさん

コーディネーターの支援

愛称募集チラシや賞状の作成、当日の伴走支援をしました。

